

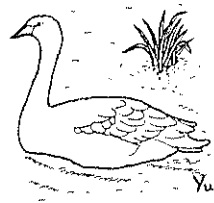
上手な◇◇◇

家事整理のしかた

「お忙しいでしょう」という言葉があいさつになり、「忙しくて、できませんでした」という断わりが通用するように、忙しいとは、まことに便利な言葉です。忙しい毎日の生活を、今一度振り返ってみませんか。忙しさに加えて、生活がルーズになっていませんか。今日の計画、明日の計画が立てられていますか。

大切で、段取り良く働き、健康な暮らしをするために、一日二十四時間の生活時間を設計してみましょう。まず、睡眠時間を七時間(朝、昼、夕)を決めて、家族全員が守ること、主婦として手を抜いてはいけない仕事(家族の健康管理、一家団らんの場合、家計の管理など)の時間づくりを、家族でよく話し合つて計画してください。そして、家族全員が、それぞれに応じた、家庭生活技術を磨き、家事分担をすることです。時間を大切に使い、家事作業を能率的に行うために、次の四つのポイントを実行してみましょう。

- (1) 仕事は早め、早めに 時期を逃さないように、次の仕事を考えて(衣類のほこり、草引きなど)
(2) 一仕事、一片づけ 新聞を読んだら畳んでおく。洗濯物を取り入れたら畳んでおく。開けた引き出しは、その場で閉める。
(3) 物には予備を ちよつとした物がなくて、仕事が終わることがあります。調味料、機械の部品、裁縫用具など、補充用を用意しておきましょう。
(4) 必要なものを必要なだけ持つ暮らし 時間の無駄は、物が多過ぎることから起こります。必要な物を使いやすい置き場所を、今一度考え直してみましょう。
【南国農業改良普及所】



私はこの目でハレー彗星を見た

浜田広信(植田)

ハレー彗星が、今年また現れるとのことで話題になっている。私は、前回の明治四十三年(一九一〇年)今より七十六年前私が十三歳のころで確かに午後七時ごろ東南の空に丈余(二丈あまり)約三・〇(三三)の尾を引いたほつき星を見た。すなわちハレー彗星であった。秋であったか春であったか記憶がないが、暑くもなく寒くもないときであったと思う。私は明治三十一年(一八九八年)生まれで、今年八十七歳であるから計算してみると、明治四十三年は私が十三歳であり、幸運に今年見れば一生に二回見ることになる。ところが今年天体を通るハレー彗星は、肉眼では見えにくい、望遠鏡でなければいかめと報じている。私は、あのほつき星が肉眼で見えんとはなぜだろうという疑問を持っていた。最近、高知市のアマチュア天文家の関勉さんの話により、この疑問が解けた。今回のハレー彗星は地球の裏側を通り、前回の明治四十三年のときは地球の表側を通過したので肉眼でけっこう見えた。なお、関勉さんは、天体観測に慣れていない方は設備のある安芸郡芸西村か佐用町に行くか、高知大学のグループに参加を勧めている。そして、十二月下旬の日没後、西南の空二〇度の高さ、水瓶座付近に接近した際には肉眼でも見ることができると話している。どうぞ天候に恵まれるよう祈ります。ちなみに天文学は西洋より中国が古くから進んでいる。日本でもほつき星の発見は日本書記に出ている。すなわち天武天皇十三年秋壬申(六八四年九月七日)ほつき星出る。西北丈余とある。私が見たハレー彗星は明治四十三年(一九一〇年)その前は大保六年(一八三五年)の記録がある。ちよつどそれより七十五年後の一九一〇年であった。

中央公民館
暮らしのマナー教室が開講
開講日・1月24日(午後1時30分〜3時30分)
毎週金曜日連続8回で終了
ところ・市立中央公民館
講師・谷治正子先生(全日本作法会教授)
会費・無料
※申し込みは中央公民館(☎3498)まで